

授業科目名	音楽文化論	担当教員	大野 はな恵
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3 年 第 3 クォーター		
講義内容	音楽文化は、人格形成や社会形成において重要な役割を果たすとともに、文化政策や企業メセナによる支援が求められる分野である。本講義では、音楽文化の歴史的背景を概観しながら、技術革新や社会構造の変化が音楽産業や音楽文化に与えた影響に焦点を当てる。録音メディアや音響技術の発展、コンピューターやインターネットの普及、さらにはデジタル時代におけるコミュニケーション手段の多様化が、音楽の流通や受容にどのような変化をもたらしたかを検討する。 また、これらの変化が音楽文化の公共性や社会的役割にどのように影響を及ぼしているかを考察する。たとえば、音楽の普及手段や視聴スタイルの多様化、アーティストの表現や活動の新たな形態の登場などを取り上げながら、現代社会における音楽文化の意義を問い直す。これらを通じて、音楽文化のダイナミズムを理解するとともに、その社会的課題に対する洞察を深める力を養う。		
到達目標	① アートマネジャーの基本的素養と位置づけ、音楽文化の歴史的かつ公共文化的理解を深める ② 現代市民社会において、音楽文化を幅広い市民に媒介し、普及させるための技法を開発し、習得する。		
授業計画	第 1 回 録音メディア・音響技術の歴史的変遷①：技術革新の起点 第 2 回 録音メディア・音響技術の歴史的変遷②：技術と音楽産業の成長 第 3 回 録音メディア・音響技術の歴史的変遷③：デジタル時代への展望 第 4 回 ゲストスピーカー：音楽産業の現場から学ぶ 第 5 回 学外講座：公演体験を通じた実践的学び 第 6 回 アナログメディアと現在の音楽産業 第 7 回 変容するレコード会社①：ビジネスモデルの進化 第 8 回 変容するレコード会社②：デジタル時代の挑戦 第 9 回 中間テスト：講義内容の理解度確認 第 10 回 音楽公演①：音楽公演と社会的・経済的価値 第 11 回 音楽公演②：多様化するフェスティバル 第 12 回 総括：音楽文化の現在と未来 ※授業計画は進捗状況により変更する場合がある		

事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にある音楽関連のニュースに関心を持ち、その背後にある制度や価値観について考える習慣を身につけること ・必要に応じて事前に指定した資料を読むこと
テキスト	授業中に適宜配布する。
参考文献	授業中に適宜配布する。
成績評価 の 基 準	授業参加およびコメントシート：40% 中間テスト：30% 期末レポート：30%
履修上の注意 履修要件	文化政策概論、文化施設運営論、舞台芸術論の履修が望ましい。
実践的教育	該当しない。
備考欄	履修者が定員を超過した場合、直近の累積 GPA により選考をおこなう <ul style="list-style-type: none"> ・講義では、それまでの講義内容の理解度を確認する中間テストを実施する。 ・この講義では、期末レポートを作成するために、自分の予定に合わせて興味のある公演やイベントに対面またはオンラインで参加すること（学外講座）が必須である。